

持続的かつ適正な
トンネル
マネジメントの
実現に向けて

富山市トンネルマネジメント修繕計画
2026年3月

1. 持続的かつ適正なトンネルマネジメントの実現に向けて

(1) 計画の概要

道路やトンネルなどの社会インフラは、日常生活や経済活動を支える基盤であり、その適正な維持管理に持続的に取り組んでいく必要があります。限られた資源（人員や予算）の中で、健全な状態で適正な量の社会インフラを将来市民に引き継ぐため、持続的かつ適正なトンネルマネジメントの実現に向けた「富山市トンネルマネジメント修繕計画（個別施設計画）」を策定しました。

対象施設 道路トンネル 4箇所

計画期間 10年〔中期〕、50年〔長期〕 ※点検結果等を踏まえ、適宜、評価・改善・修正を行います。

(2) 富山市が管理するトンネルの特徴

富山市には、4本の道路トンネルがあります。いずれも延長100m以上の山岳トンネルです。

比較的新しい新婦トンネルはNATM工法で建設され、他のトンネルは1980年代前半以前に矢板工法によって建設されました。供用開始から50年以上が経過するトンネルは、現在、吉谷トンネルですが、20年後には富山市が管理する全てのトンネルが50年以上経過することになります。



しんぶ
新婦トンネル 延長/332m 幅員 8.7m
所在地/山田宿坊・
八尾町高熊地内



よしたに
吉谷トンネル 延長/141m 幅員 4.1m
所在地/婦中町吉谷地内



みょうがんすいどう
妙巖隧道 延長/260m 幅員 7.5m
所在地/山田数納地内



すなくら
砂蔵トンネル 延長/207m 幅員 7.0m
所在地/蟹寺地内

2. トンネルの維持管理の現状と課題

(1) 進む老朽化

私たちと同じようにトンネルにも寿命があります。すべてのトンネルにおいて老朽化が進展します。

トンネルを適正に管理していくためには、定期的な健康診断（点検）や適切な治療（修繕）が必要です。計画に基づき修繕を進めている状況ですが、トンネルの点検を行った結果、いずれのトンネルも予防的あるいは早期の対応が必要な状態のため、修繕などの対策が必要であることがわかりました。

一般的にトンネルは、通行ができなくなった場合の社会的な影響が極めて高いこと、また、施設の内部を利用するため、利用者への被害が発生するリスクが高いことなどから、きめ細かい対応が必要であり、その維持管理には多くの費用が必要になります。

富山市が管理する道路トンネルの概要

名称	延長	幅員	建設年	健全性(点検年)
新婦トンネル	332.0m	8.7m	1995年	Ⅱ (R5)
吉谷トンネル	141.9m	4.1m	1967年	Ⅱ (R5)
妙巖隧道	260.0m	7.5m	1982年	Ⅲ (R6)
砂蔵トンネル	207.0m	7.0m	1977年	Ⅲ (R5)

健康状態（健全性）の区分

I	健康な状態
II	予防的な対応が望ましい状態
III	早期の対応が必要な状態
IV	緊急的な対応が必要な状態



老朽化に伴う一般的なトンネルの変状例

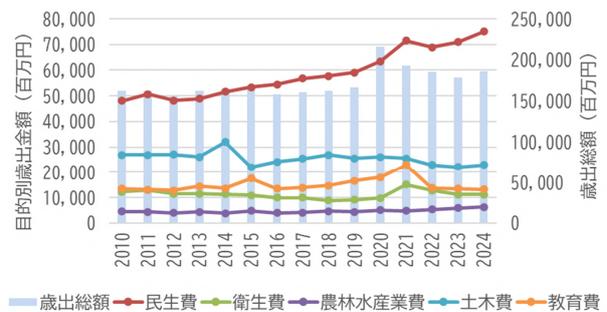
(2) 厳しい財政状況と維持管理体制

トンネルの維持管理に必要な人員や対策費用（コスト）は、人口減少・超高齢社会において減少傾向にあります。トンネルの老朽化の進行によって、対策費用（修繕・更新費）は増加していくため、予算の不足や人員の減少などにより、十分な対策が実施できないことが懸念されています。



富山市の年齢区別の人口集計

(出典：富山市将来人口推計報告書、富山市、R7.2を基に作成)



富山市の主な目的別歳出の推移

(出典：各年決算資料、富山市)

3. 持続的かつ適正なトンネルマネジメントの実現に向けて

(1) トンネルマネジメントの基本方針

富山市では、限られた人員や体制、予算で、持続的かつ適正にトンネルをはじめとした社会インフラのマネジメントに取り組むために、3つの基本方針を掲げています。

基本方針1	適度な増加の抑制	(量のマネジメント)
基本方針2	管理水準の適正化	(質のマネジメント)
基本方針3	新たなしくみの導入	(資源のマネジメント)

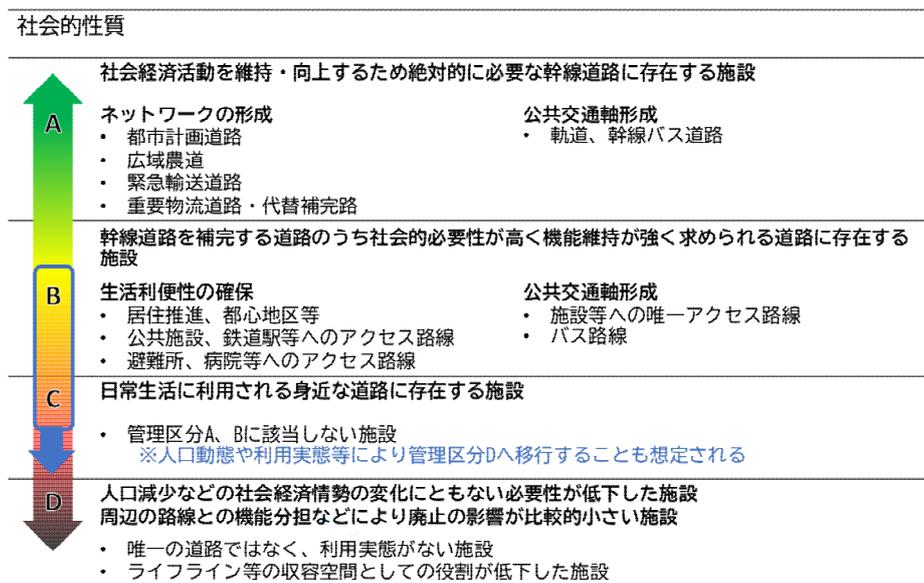
社会インフラを持続的かつ適正に管理していくため、富山市における地域の特性や、まちづくりの方針などを踏まえて、社会インフラの適度な増加を抑制しつつ、適正な管理水準により、官民連携など新たなしくみも活用しながら、総力を挙げて持続可能な都市経営の実現を目指すこととしています。

このため、トンネルマネジメントでは、道路やトンネルの位置づけや役割、健康状態などから施設の必要性などを評価し、重要なトンネルは優先的に修繕等を進めます。一方で、他のトンネルは通行制限や通行止めによって安全性を確保ながら、必要性が低下した場合は廃止を含めた対応を行う、**選択と集中**によるメリハリのある対応を推進することで、予防保全型の維持管理へ順次以降を目指しつつ、必要性の高いトンネルを適正な状態で持続的に維持したいと考えています。

(2) 管理区分と管理水準の設定

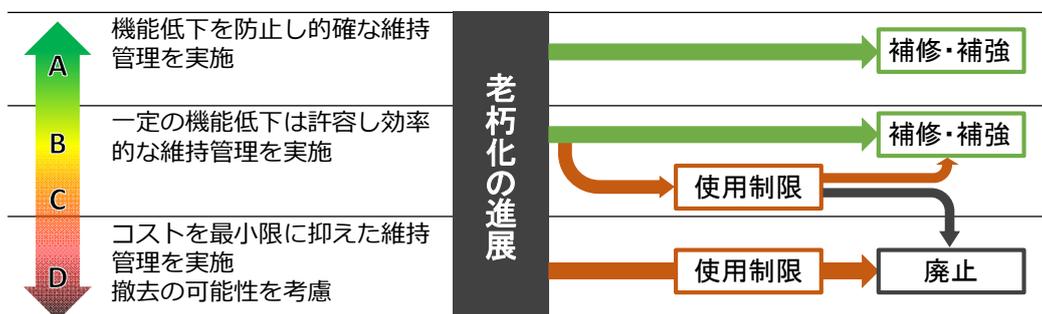
選択と集中によるメリハリのある対応を推進するため、道路やトンネルの位置づけや役割などの「社会的な性質」、健全性や構造などの「技術的な性質」を評価し、優先的に対策を実施するトンネルのほか、通行制限や通行止めを実施するトンネルなど、対策と優先順位を判断していきます。

<管理区分の設定の考え方>



また、評価に基づいて、グループ分け（管理区分）と、グループ毎に維持管理レベル（管理水準）を設定することで、選択と集中によるメリハリのある対応を実現します。

<管理水準の考え方>



(3) メリハリのある対応

道路やトンネルの役割や位置づけ等から必要性を評価するとともに、定期点検等で把握した健全性などの評価を踏まえて、措置の優先度や方針についてメリハリのある対応を推進します。



(4) 対策の実施時期と対策費用

持続的かつ適正なトンネルマネジメントの実現に向けた対策として、

- ・トンネル毎に5年に1度の定期点検を実施します。
- ・定期点検結果等を踏まえ、管理区分・管理水準に応じた適正な措置を実施します。
- ・メリハリのある対応や、新技術等を積極的に活用して、業務の効率化や高度化、環境負荷の低減に取り組むことで、令和13年度までに約1百万円のコストの縮減を目指します。
- ・メンテナンス業務の更なる効率化のため、地域インフラ群再生戦略マネジメント※を推進します。

※複数・広域・多分野のインフラを1つの群として捉え、効率的・効果的なインフラマネジメントを目指すもの

施設毎の管理区分・管理水準に基づくメリハリのあるトンネルマネジメントによる対策費用

トンネル

約7.4億円/50年

※メリハリのある対応により50年間で約8億円の対策費用の削減効果が見込まれます。

メリハリのあるトンネルマネジメントで「未来の富山市を守る」

人口減少や高齢化の進展などにより、厳しい財政状況が見込まれる状況において、全ての施設を守ることを前提に維持管理費用を増やし続けることは困難です。

メリハリのあるトンネルマネジメントを推進することで、現在市民だけでなく将来市民の日常生活や経済活動を守ることができると考えています。私たちは持続可能な都市経営の実現に向けて、市民の皆様のご理解とご協力を頂きながら持続的かつ適正なトンネルマネジメントを推進してまいりたいと考えています。

お問い合わせ：富山市 建設部 道路構造保全対策課
076-443-2237